

1997年 1996年

マイフィールド 遠藤谷戸探鳥会報告(11月10日)

今年は冬が近いのか、マヒワ、ジョウビタキ等冬鳥が多く来ています。竹やぶにはぶた殿を数十倍大きくしたようなオニフスベ(きのこ)が、日溜まりではアオダイショウ、ヤマカガシの子供が日向ぼっこをし、そしてトリノフンダマシ(くも)が葉に卵のうを産し、谷戸は生き物たちで大賑わいでした。

参加者

[Redacted names]

(10名)

見られた鳥

スズメ、カワラヒワ、マヒワ、ハクセキレイ、キセキレイ、ヒヨドリ、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、ヒバリ、ジョウビタキ、ウグイス、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、モズ、キジバト、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(30種) - ドバト

[Redacted names]

1997年

マイフィールド報告 遠藤谷戸探鳥会(3/9(日))

バス停から春がすみのむこうに富士の姿を見ながら行くと、早速白い翼の裏を見せてカラスとからむオオタカが出迎えてくれました。日印のユーカリの木そばには、オオカンザクラとカンヒザクラが満開で、一足早い春爛漫の気配。道を下って葦原では、葦の穂先にマヒワがとまったり、また飛び上がったたり。そして窪地の脇の道は、ミヤマホオジロが。オスが二羽、メスが一羽。冠羽はふさふさと大きく、黒い頬の部分の上と下の黄色は、くっきりと三角に光っていました。赤いヤブツバキの花の散らばる間を行ったり来たり。何かおいしいものでもあるのか、アオジやシジュウカラも次々に加わりました。

畑の道に出るとヒバリが囀りながら舞い上がり、ツグミが土をつつき、オレンジ色のさえたジョウビタキのオスも見られました。帰り道、頬をくすぐる心地よい風を感じながら上空に目をやると、翼の肩先に黒い模様の日立つノスリが二羽、ゆったりと戯れていました。

この日は、バードウォッチングの途中に日食を観察するという珍しい体験もしました。(9:00~12:15)

見られた鳥

オオタカ、ノスリ、ミヤマホオジロ、キジ、カワラヒワ、スズメ、シジュウカラ、マヒワ、ヒヨドリ、アオジ、ホオジロ、シロハラ、ジョウビタキ、ムクドリ、ツグミ、ヒバリ、セグロセキレイ、カシラダカ、ソウシチョウ、メジロ、ヒガラ、ヤマガラ、コジュケイ、ウグイス、コゲラ、カケス、クロジ(?)、ハクセキレイ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、トビ、シメ、モズ、アカハラ、キジバト、アカゲラ or アオゲラ(36種)

参加者

[Redacted names] (12名)

[Redacted names]

マイフィールド報告

遠藤笹窪谷戸探鳥会

98年 9月26日 9:00-12:00

今年はヒガンバナは2週間前に盛りを過ぎており、谷戸を右回りで行くと、林縁よりホタルガが飛び立ち、白い輪がクルクルと回り私達の目をくらまし、ワキグロサツマノミダマシは巢の中央に留まり、緑色のペンダントのごとし。ツバメは電線に20前後集まり、南へ帰る準備をしています。秋の長雨の候、何とか天気はもちました。この谷戸はここ数年で大きく様子が変わるかも知れません。今後暫く

OUR フィールドとして、定期的に観察、記録を残したいと思います。

見聞きした鳥 スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、ツバメ、ホオジロ、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、ハシブトガラス ハシボソガラス、セグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイ、コガラ、カケス、モズ、オオタカ、ヒバリ、ヒメアマツバメ(20種)

98-

10月24日(土) 雨 9:40~11:30

当日は雨模様で探鳥が危ぶまれたが、8時頃、一応、雨が上がったのでTELした。「行ってみよう!!」ということになり、9時半に慶応大前の駿河銀行横に集合。その頃には、雨もしとど降っていたが、折角来たのだからと出発。笹窪谷手前のサッカー練習場を横切り、東側の道を奥へ進む。途中で、旧知で藤沢探鳥クラブ会員でもある

に出会う。これから、昔の教え子(現在大学生)である若者二人と、この谷でバンディングをするとのことであった。バンディングの状況は、谷と平行に2×5mのかすみ網を5枚張り、谷を渡る野鳥を捕らえて、種類を調べ、足環を付けて放すもので、近くに環境庁公認の赤い旗を立てての作業であった。一応、らと別れ、雨の中を西荻蒲沢へ出てから、少年の森を横に見て進み、再び谷の中心部のバンディングの場所に戻った。当日は雨のせい

か、網に木だ1羽もかかっていなかったが、上空にはツミ?(翌日、がハイタカと確認)が舞っていた。バンディ

ングの様子をしばらく見ていたが、かかる様子もないので辞去し、再び慶応大学バスターミナルに戻った。遠藤笹窪谷は藤沢市に残された数少ない自然の宝庫の一つだが、近く健康の森とかで大規模の病院が建つと聞いた。出来れば、中止して貴重な自然を残してもらいたいものだと思う。

参加者: 見聞きした鳥: スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ムクドリ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、モズ、キジバト、カワラヒフ、ホオジロ、カケス、アマツバメ、ハイタカ、ダイサギ、オオタカ(16種) 当日は雨天のため中止しましたが、で小沢の手歩いてみました。

1998

12月12日(土)

どんより曇った寒いお天気の中、久しぶりに遠藤探鳥を楽しみました。この冬ま

だ会っていないシメが番で(?)飛び交ったり、木の芽をおいしそうに食べていました。ノスリが2羽何度も姿を見せ、木に止まって鳴き交わす姿をじっくり観察。ツグミの数は多いが群でいるクヒバリ、カシラダカ、マヒワ等が1羽づつしかいないのに異変を感じる。遠藤笹窪谷は素晴らしいかけがえのない自然ですね、激しい開発の波を何とかくいどめたいものと痛感しました。参加者4名。

見聞きした鳥 ウグイス、カケス、ハクセキレイ、ツグミ、ホオジロ、シメ、コサギ、トビ、ノスリ、オオタカ、ハイタカ、キジバト、カワセミ、コガラ、セグロセキレイ、キセキレイ、クヒバリ、マヒワ、カシラダカ、アオジ、ムクドリ、ヒヨドリ、カワラヒフ、モズ、ジョウビタキ、ウロハラ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス(31種)

マイフィールド報告

第4回遠藤笹窪谷探鳥会

99年 (2/13)

快晴の中、慶応大学バス停のすぐそばで、オナガの群に迎えられ、ツグミ、ジョウビタキ、ホオジロ等を楽しみながら谷戸に入って間もなく、ノスリがカラスにしつこく追われていて可哀そう。今日はオオタカが盛んに鳴いており、そろそろ繁殖の準備をしているのか？谷戸の中程では、小鳥の群がバラバラ動いており、何だろうと近づいてしばらく観察した結果、カシラダカと確認でき、何となく安心。

圧巻は大きさの異なるタカが3羽、お互いに牽制するように上空を旋回し、森さんの情報を総合し、オオタカ2、ハイタカ1と断定。シメ、モズにも会え大満足の探鳥会でした。

参加者4名。見聞きした鳥 ツグミ、オナガ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ホオジロ、ノスリ、トビ、ハシブトガラス、メジロ、カケス、オオタカ、キジバト、シジュウカラ、カシラダカ、コゲラ、カワラヒワ、アオジ、ハイタカ、シメ、モズ、ウグイス 計24種。

遠目の枝垂れ梅にも飛び交う小鳥の影が見えました。谷戸の東斜面は猛宗と樺が共生、根が張り巡り地に露れ履きに用心、笹落葉は堆積し掃の如。この辺りにはフクロウが生息しているとのことで、モグラの盛土を除けながら林の奥を探索しましたが気配を察知したようで姿を見せず。営巣は茂った大木の樹洞に多く夕刻頃より羽音を立てず行動、捕らえた獲物は巣近くの食場へ運び平らげる。その跡が歴然。また、雑は高い所より転げ落ちて鋭い上嘴を樹皮に引掛け這いあがるなど、野生猛禽の逞しい習性を同行の源さんよりいろいろ伺いました。谷戸底は約半分がグラウンドに造成され青少年の球技が盛ん。未成地は雑木と草で原野の様。随所にハンノキの枝が高く伸び格好の止まり木。清らかな鶯の英声も聞かれました。台地は耕作され畦にタヒバリ、灌木にはヤマガラ、アオジなどが枝から枝へ。視界は大きく開け、オオタカが悠々飛翔。当地でも巣立ちが確認されています。路傍、野草の青が根元に見え隠れ、蕨の藪が点在。復路、グラウンド脇の細流湿地よりコサギが飛び立ち丘陵の彼方へ。森閑の谷戸も纏て若葉が萌え鳥たちの営みで賑やかになることを想いながら帰途へ。

谷戸の保全は、生物が自然の中に生命を維持してゆける（食物連鎖）環境の整備が必須であり、諸計画の成果を期待します。因みに地域内墓誌に寛文十二年（1672）～安政元年（1854）との標記も見られ、累代の人達が谷戸を守り、これを利用し生活していた姿が浮かびます。時世は大きく変わりましたが、造園土木の新工法も適宜取り入れ、この希少な谷戸を遺すべく挙って協力したいものです。

マイフィールド報告

第5回遠藤笹窪谷探鳥会報告

99年 3月13日 8:45-12:00

啓蟄、春分の日と暦は弥生三月ですが、曇り空の肌寒む陽気でした。バス停より舗装の道を往き左へ折れ北回りで谷戸の方角へ。途次、ツグミの群れ、ハクセキレイ、ヒヨドリに会い、黄楊の植木畑、

1999年12月11日 8:20-12:00 晴れ

何時もいつも熱い想いでこの谷戸を考えている私なのに、本当に久しぶりの遠藤でした。前日の天気予報によると「明日からは西高東低の冬型気圧配置になる」と。集合時間の8時過ぎでは曇陰にまだ霜が残っており、辺りの赤や黄に染まった樹々は大部葉かずも減り、風もないのに落ちる期を知ってか葉がバラリ、バラリと見上げれば晩秋、足元は初冬の感。数羽のオナガの青空を劈く声で慶應バスターミナル辺りからの観察となり、木の実がまだまだ残っているためかツグミもシメも樹上。棕の木にムクドリが集まり賑やかである。ムクドリがこの実が好きだから棕の木の名があるのか、いや、木偏がつくので木のほうが先だろうとか、いやはやムクに負けない騒がしさ（この弁、勿論私も）。ゆっくり、しっかり観察しながら谷戸中央まで進み、「そろそろオオタカが姿を見せてくれないかなー」と誰彼ともなく言いあっているところへ谷戸奥の稜線よりオオタカの求愛ディスプレイ飛行。光を翼に充たし、キラキラ

銀色に輝く。あまりにも美しく観察者の感嘆の声はひっくり返る。ああ、この谷戸でいつまでも愛のくらしをしていておくれ。

リーダーの森氏、「カシラダカの群れが多かった処なのに……」とぼやく。3時間余りの観察会の終盤時、畠側の裸木に鈴生りのスズメの群れにやっとのことカシラダカ発見。どうかカシラダカがレッドデータブックに載るようなことのないよう皆で祈った。穏やかな日和の楽しい観察会でした。参加者 7名

見聞きした鳥 ノスリ、トビ、オオタカ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、オナガ、カケス、シロハラ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、アオジ、シメ、カシラダカ、ホオジロ、カワラヒワ、ジョウビタキ、ヒバリ、ツグミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ウグイス、モズ、キジ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、メジロ、キジバト(計30種)